# dosite

どーして ／ 学習

## 「どーして？」でつなぐ学びの伴走。



教科書と、対話の相手と、自分のノート

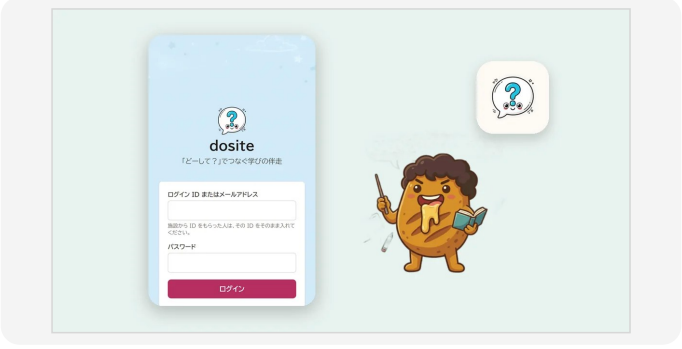
## このアプリについて

dosite（どーして）は、通信制高校で学ぶ生徒のための学習伴走システムです。教科書とレポート（課題）をスマートフォンで撮って取り込むと、AIが「この設問は何を聞いていて、教科書のどこに答えがあるか」をつかんだうえで、生徒と対話しながら道筋を一歩ずつ一緒にたどります。AIは答えを知っていても言いません。合っている答えは合っていると認め、「なぜそれでいいの？」を生徒自身の言葉で言えるまで付き合い、言えたら「レポートに取り組んでみよう」と送り出します。分数や割合など、前に習った内容が元で止まったときは、設問をいったん置いて、小さな例で確かめてから戻ります。対話で生まれた生徒の言葉は、会話を終えると「わたしの教科書」の章になり、B5の冊子として印刷できます。世界にひとつの、自分の言葉でできた参考書です。

## こんな方へ

通信制高校に在籍する生徒（スマートフォン・パソコン）、サポート校・学習支援の講師とクラス責任者、施設・運営会社の責任者

## 画面




dosite のログイン画面（スマートフォン）




「わたしの教科書」の章（サンプル。生徒名は架空）

### くわしい紹介・導入のご相談はこちら

https://app.soship.co.jp/app.php?id=dosite

公式サイト：dosites.xyz/lp ／ 導入のご相談：soship.co.jp/contact

## できること

1. 教材の取り込み：教科書とレポートを撮影・PDFで取り込み、設問ごとに「何を聞かれているか」と教科書の該当箇所を整理（動画講座で学ぶ科目にも対応）
2. 学びセッション：AIが教科書の道筋を一歩ずつ示し、一歩ごとに理由を自分の言葉で言えるまで付き合う。答えは渡さず、合っている答えは聞き直さずに認める
3. 選択肢は打つ手間を減らすためだけに使い、理由は必ず自分の言葉で。話した文をそのまま下書きにでき、音声での対話にも対応
4. もどり：分数・割合・語順など、前に習った内容が元で止まったら、設問をいったん置いて、小さな例で確かめてから戻る。学年は生徒に言わない
5. 5分のもどり練習：つまずきの多かった内容を、見本を見てから3問だけ選んで確かめる。1日に1つで、やるかどうかは本人が決める。点数は付けない
6. どーしてカードと持ち越しの問い：出てきた疑問を記録し、次の学びの入口にする
7. 今日の予定と体調のチェックイン。レポートの締切・スクーリング・試験の予定を自分で登録し、進み具合を確かめる
8. わたしの教科書：会話を終えると、自分の言葉から章が自動で作られ、B5の冊子として印刷できる（講師が確認・編集）。試験に出る単元だけの「試験前まとめ」も
9. 小論文の作成支援：骨子（主張・理由・具体例・まとめ）を固めてから一歩ずつ。AIは文を書きかえず、直すのは本人
10. 講師の画面：その日の様子・会話と到達点・コメント。つまずきの元を生徒ごとにまとめた「土台の地図」と、やりとりが長く続いた設問の見守り。講師の一言は、次の学びの最初にAIが伝える
11. 安全への配慮：しんどさや不安の兆しがあれば学習の話題を止めて講師に知らせる。記録は本人と担当者にしか届かないよう、データベースの行単位で守る
12. 連絡帳ときづり連携：その日の学びからAIが連絡帳を下書きし、講師が確かめて確定。連携している事業所では、放課後等デイサービス側（きづり）へ、5領域の記録として共有

## なぜ、つくったのか

通信制高校の生徒は、レポートの締切、スクーリング、単位認定試験を自分で回さなければなりません。自宅学習が中心で「今日何をやるか」を決めるのは自分だけ。教科書を読んでも分からないところを誰にも聞けず、レポートを写して済ませてしまう、その結果、理解が積み上がらず、提出も遅れていきます。dosite は、出発点（単元と設問）と到達点（教科書の答え）は学校が決めていても、その間の道のりは生徒自身の「どーして？」で歩けるようにしたい、という考えから生まれました。使ってみると、高校の設問で止まる元が、小学校〜中学校で習った内容（数え上げ・分数・割合など）にあることも少なくありませんでした。けれど生徒は「約分って何？」とは自分から聞きません。そこで、どの内容が元だったかを会話から見立てて、学年を言わずに、そこまでもどって支える仕組みを加えました。私たち自身が運営する通信制高校サポート校の現場で、講師と一緒に試しながらつくっています。

## これから

実際の生徒との試用を重ね、日々の記録を読みながら改善を続けています。前に習った内容にもどって支える仕組み（土台の地図・もどり・5分のもどり練習）は2026年11月に加え、数学から順に確かめています。放課後等デイサービス向けの「きづり」とは、連携している事業所で、講師が確かめた学びの記録を5領域の記録として共有できるようにしました。教科書の範囲を超える問いは「持ち越しの問い」として残し、narZE の自由な探究へ渡していきます。導入を考えている学校・サポート校・教室の方に向けた紹介ページ（dosites.xyz/lp）では、5分のもどり練習を見本の問いで試せます。

**提供元　株式会社SOSHIP**

放課後等デイサービス・学習塾・通信制高校サポート校を自ら運営しながら、現場で必要になった仕組みをアプリケーションとして開発・提供しています。

〒225-0024 神奈川県横浜市青葉区市ケ尾町1158-3 杉田ビル　／　soship.co.jp　／　導入のご相談：soship.co.jp/contact

アプリ・公式サイト